

## 【別紙 2】

### 本編 補足資料

1

1

## あかりの家における集中支援

— 取り組みにおける5つの視点 —

先回りの支援を通して、  
行動問題をしなくても済む「成功体験を積み重ねる」

①利用初日を  
成功させてあげる

②食事・睡眠・排泄/  
日中活動の充実

③衝動的・強迫的な  
行動への支援

④余暇時間に  
取り組める活動の発掘

⑤医療との連携

2

2

第1期 まずあかりの家で生活を再構築

### ① 利用初日を成功させてあげる

#### 基本的な考え方

「多くの場合、こじれきった関係や環境の下での修復は相当に困難である。そういった場合は、一旦その関係と環境から離れて、療育機能を持った専門機関を利用する。」ことがあげられている。

(参考:「全自者協調査研究プロジェクト」09.)

そこで、環境を変えた利用初日は大きな方向の分かれ目

これまで、行動問題が頻発してしまった状態を途中から、修正することの困難さを私たちは痛感してきました。

**いいスタートを切り、それをリズム化してあげる。白星街道!**

“あかりの家では、うまくいけそうだ”という好循環の見通しを持ってもらいたい。そこでは、先回りの支援等を通して、“行動問題等をしなくても済んだ”という成功体験が大きな意味を持つと考えます。

3

3

第1期 まずあかりの家で生活を再構築

### ② 食事・睡眠・排泄／日中活動の充実

#### 基本的な考え方

行動障害の背景に、「食事・睡眠・排泄／日中活動」に大きな乱れがあることは多い。

また逆に、強い行動障害によって、これらが大きく乱れることもあって、両者の相関関係は強い。

「食事・睡眠・排泄／日中活動」は支援の基本。

基本がしっかりしていれば、行動の乱れも減る。

「食事・睡眠・排泄／日中活動」の支援ができるかどうか、それであかりの家の支援力が決まる。

(19. 兵庫県強度行動障害支援者養成研修 あかりの家 三原前施設長)

4

4

(表1) (例) 「食事・睡眠・排泄 / 日中活動」の躓き

領域	躓きの例	考えられる背景
食事	①咀嚼、嚥下 (丸飲み、えづき等) ...吐き出し ②強迫的な掻き込み食べ ③一気飲み,最後の一粒が残せない ④食器の引っくり返し ⑤他者の物をとる	①えづき：状態が悪いと首回りの力みや口周りの動かし方等、円滑に出来ない事がある。→一口量、口に入れるペースを支援。 ②多くの場合、皿に口をつけて掻き込む (箸で挟む、適切な一口量、口の物が少なくなってから次を食べる等の支援要) ③一旦取りかかった事を途中で止める事の困難さ
睡眠	①不眠 (昼夜逆転) ②二度寝できない ③徘徊 ④騒ぎ ⑤水遊び ⑥シーツ破り ⑦夜間の飲食等	①眠りが訪れる状態へ導くことの困難さ ・声が出続けている、独語 ・手足の動きを止めることが難しい ・こだわっている物への執着 ・気になることへの強い不安
排泄	①排尿 ・失禁、放尿、頻尿、尿が出にくい ②排便 ・便秘、頻便、失便、放便	失禁のある方の場合、「まず出し切れているか？」を疑う。 特に力んで排尿している方は要注意。 出ないことがある。腹筋を緩めて、排尿する手助け等を行う。
日中活動	①ゴロゴロ ②ウロウロ、走り回り ③特定の興味への没頭	作業等を軸に、“張り合い”のある日中活動の有無は、心理的側面の充足に欠かせない

5

基本的な考え方

「困っている行動の背景は、日常の行動と“連続体”？」

- 行動障害の背景に「強迫性・衝動性・多動性」が関連する事は多い。
- 強迫性、衝動性、多動性などは、困っている行動の場面だけでなく、日常の行動の中にも“連続体”として見られることが大半ではないでしょうか？。
- 問題となる行動の根っここの要素が共通するとした時、その強さや頻度が低い日常繰り返されていて、そう問題とは思われない行動にこそ、積極的な応援を丁寧に行い、和らげてあげることが成功への秘訣ではないでしょうか。  
(困っている行動=支援のハードルが高い。日常の行動=支援を行うのは比較的容易)
- 特に**食事**は加速しやすく、日常の中でゆったりと食べてもらえるようになることが、ひいては困っている行動を和らげていくための基礎要件と考えます。

6